

インクル

"Incl." by The Accessible Design Foundation of Japan (The Kyoyo-Hin Foundation)

The Periodical of Accessible Design

特集

神保町と共用品

No. 109

2017(平成29)年 7月25日



目次 contents

■ 古書籍販売 高山本店 高山肇代表に聞く神保町	2	■ サクラホテル & カフェ神保町	10
■ バリアフリーマップ	3	■ 「共用品講座」第99講	11
■ 岩波ホール	4	■ 家電製品、家事の道具等に関する良かったこと調査報告	12
■ 神保町シアター	5	■ あすなる会（若年性特発性関節炎 親の会）の活動	14
■ 書泉グランデ	6	■ 第18回共用品推進機構活動報告会報告	15
■ 小学館 新社屋	7	■ 事務局長だより	16
■ 共立女子大学・共立女子短期大学	8	■ 共用品通信	16
■ 明治大学	9		

たかやまはじめ
古書籍販売 高山本店 高山肇 代表に聞く神保町

はじめに

神保町に生まれ、育ち、学び、働いてこられた古書籍販売の高山本店の四代目代表の高山肇たかやまはじめさんは今年、「神保町未来会議」を学者、商店街、行政、企業等のメンバーと共に立ち上げました。



高山本店 高山肇 代表

「大火、戦争、地上げ、震災を乗り越えてきた神保町を年代ごとの地図を重ねるようにして整理し、振り返りながら、『共創の街、神保町』と題して、今後20年、30年ここに住む、働く人たちの心は継承しながら、ハード面においてのあり方を検討したいと思っています」と、高山さんは話されます。

神保町の古書店は、現在約

160店舗、バブル時代に地上げ屋にも屈しなかった強者つわものぞろいです。この強者たち、共通した不文律を持っています。それは、目的の古書を探しに来られたお客さんを、「探し出せなくてがっかりさせない」ことです。自分の店にない本の場合は、ありそうな店を紹介するのです。

「神保町に店を構える古書店はもとより、飲食店も家業として行っているところが多く、安心感が根底にあるんだと思います。と言っても、新しく出店する人たちをすぐに受け入れるのも神保町の特徴なんです」と、高山さんは教えてくれました。高山さんが区議会議員時代に、担当されていたのは商店街と、観光。

千代田区の観光協会を訪ねてみました。

バリアフリーマップ

千代田区観光協会に勤務する渡辺美樹わたなべみきさんは、子供が小さい頃、子供を自転車に乗せて自宅

のある神田、秋葉原、御茶ノ水、神保町、そして職場のある九段下界限を走る機会が多くありました。勾配がきつく自転車では困難な道もあるため、自然と勾配の少ない道を行っていました。

彼女の職場にくる千代田区観光に関する問い合わせの中には、車椅子で廻れる経路を教えてください」などの要望もあり渡辺さんは、普段自分で自転車を通る勾配の少ない道を伝えたところ大変喜ばれました。道の勾配情報に、店舗や施設の入り口の段差、エレベーター、多機能トイレ、AEDのある場所などの情報を加えた地図を作れば、より多くの人の便利につながるのではないかと彼女は考えました。その計画を、ママ友で、区内在住の金子久美子かねこひさみこさんに相談したところ、さらに数名のママ友とそれぞれの家族もメンバーに加わってくれました。調査を開始する前に、できあがったバリアフリーマップを印刷するため

に、「町づくり助成金」に応募、審査会の「地図は公的機関が作らないと継続が難しいのではなにか？」などの質問にも、家族の協力や次世代へも引き継ぐ決意を伝えたところ採用されました。ものさし、巻尺、傾斜測定機、メモ調を持参し情報を収集する作業は、いくつかのグループに分かれて行われ、集めた情報は、2010年、一つの地図になり印刷され配布されました。二〇〇〇部印刷したこのバリアフリーマップは、瞬く間になくなり、追加情報の載った第二版もできあがりました。



バリアフリーマップ作成の調査風景

継続するバリアフリーマップ

二年目に作ったマップには、神保町のバリアフリー情報、共用品推進機構の事務所がある道の勾配が5度であることや、歩道の真ん中に木が立っている情報なども、しっかりと掲載されています。

続ける・広げる

3つの地域のマップを作り終えた時、千代田区から声がかかり、翌年からは千代田区の正式な事業となりました。金子さんは、共生社会を意味するリープ・ウィズ・ドリームというNPOを立ち上げ、バリアフリーマップ作りを継続できる仕組みを作りました。今では、家族だけでなく千代田区にある会社が社会貢献の一環として、調査作業を手伝ってくれるまでになっています。千代田区に勤務する社員が住む地区でもと、中野区でもマップづくりがスタートしました。

さらには、車椅子を押す人が、一休みできる場所の情報と

して、誰でも利用できる椅子の情報も掲載することを計画しています。自分の知った情報を他の人にも知らせたいという思いから始まったこの活動は、肩に余分な力をいれずに継続、受け継がれ、広がっています。



ちよだバリアフリーマップ

誇り

高山さんに、神保町とバリアフリーに関してたずねたところ、「残念ながら、古書店の場合、古書の入荷などの時には通路に書籍を置かなくてはならない場合もあり、バリアフリーになっている」と胸をはって言えない状

況です。けれど、だからこそ、障害のある人たちを、不便な部分はその都度臨機応変に工夫しながら受け入れさせてもらっているんです。多くの人を受け入れたいという気持ちと工夫の元となっているのは、『そんな神保町が好きだ』という誇りを、神保町の住民がもっていることなんです」と、力強くは教えてくれました。

本と街の案内所

インターネットの普及で、書籍離れが広がっていると書かれ、7月1日、神保町のずずらん通りに、「本と街の案内所」が、リニューアルオープンしました。ここでは、探している古書がどの店にあるかを検索できるサイトを見ることができま

は、国際的にも流れています。「先日、英国から8万円もする空手の本の注文があり、すでに効果がでている」とのことです。



神保町古書店データベース
http://jimbou.info/book_search/index.jsp

商店会の会長、議員も長年勤めてきた高山さん、既に本屋さん、五代目に息子さんの就任が決まっているのですが、この6月に千代田区の商店街連合会会長に就任、一息どころか、これからますます忙しくなる高山さんですが、いつまでも元気で温かな心をさらに広く伝えていっていただけたらと心から願う次第です。

ほしかわやすずき
星川安之

岩波ホール



岩波ホール 客席より

はじめに

平日の昼間にもかかわらず、多くの人が詰めかけ上映が終わり、ホールの扉をスタッフが開けると「満足！」の笑顔が広がる空間。それが岩波ホールです。

岩波ホールが神保町交差点の角にできたのは1968年。席数232席（現在は220席）の多目的ホールの位置づけで、73年までは民族芸能、演劇、コンサート、講演会などが主な催しでした。その名残で、現在もスクリーンと客席の間には、それらができる広さが存在しています。

エキブ・ド・シネマの会

岩波ホール設立から6年目の74年、世界の埋もれた映画を発掘し上映するエキブ・ド・シネマ（「映画の仲間」の意味）運動を開始し、観客にも積極的に参加してもらうことを目的に、エキブ・ド・シネマの会が発足しました。現在会員は全国に約3000名、上映される映画の情報はその都度、会員に送られる仕組みになっており、毎回遠方からも鑑賞に来られる方が数多くおられるとのこと。

四つの目標

エキブ・ド・シネマの会は、4つの目標をもっています。

- ① 日本では上映されることのない、アジア・アフリカ・中南米など欧米以外の国々の名作の紹介。
- ② 欧米の映画であっても、大手配給会社に取り上げない名作の上映。
- ③ 映画史上の名作であっても、何らかの理由で日本で上映さ

れなかつたものの上映。

また、カットされ不完全なもので上映されたものの上映。

そして、

- ④ 日本映画の名作を世に出す手伝い。

会場がクラス会に

終戦により台湾から日本に引き揚げてきた日本人を描いた映画「灣生回家」では、「多くの当事者、家族が鑑賞し、まるで劇場内がクラス会のようになつた」と話してくれた



ロビーの壁に掲示されているチラシとパンフレット

のは、岩波ホール広報の矢本理子さんと劇場担当の村上啓太さんです。映画が上映されなかつたら、会うこともなかつた人たちが、上映された映画によって繋がる。映画館がそんな空間となっているのです。

聴覚障害者を描いたポーランド映画を上映した時には、聴覚障害者向けの上映を行い、場内の案内を音声だけでなく、プラカードで表示しました。また、平成13年に発足したバリアフリー映画鑑賞推進団体シテイライツとは、10年間ほど連携して視覚障害者に音声ガイドを聞きながら映画を鑑賞してもらったりすることも行ってきました。

ホールのロビーの壁と机に掲示されているチラシとパンフレットに、歴史の重みと共に、文化の発祥地であることを実感します。

星川安之

神保町シアター



神保町シアターの外観

はじめに

すずらん通りの小路を曲がると、大きな卵型をした建物が見つかります。

その建物が神保町シアター、10年前にオープンした映画館です。当初は、アニメ映画や海外の映画も上映していましたが、平日の昼間に観に来られる年齢層には昭和30年代、40年代の日本映画が人気で、検討を重ね、今では懐かしい邦画を中心に上映する映画館になっています。

昭和の映画上映の意味

昔を懐かしむニーズに応える映画を今から作ろうとすると、背景、小道具、衣服など全てその時代のもを再現させる必要がありますが、どんなに努力しても「作り物の域は脱しません。けれども、神



シアター客席より

保町シアターで上映されている映画は、全てがその時代のものであり「本物」なのです。

「来館される方には、お父さんと息子さん、お母さんと娘さんといった、親子連れが実は多いんです」と、支配人の佐藤奈穂子さんが教えてくれました。「お子さんが嫌々来ているわけではないのが分かるのは、終映後お子さんのお父さん、お母さんに、映画の中の背景、小道具、衣服に関する質問を熱心にし、その質問から会話がついていく光景に何度も出会っているからです」

区別なく

「耳の不自由なお客さまや、車

椅子を使用されるお客さまも常連さんでいらつしやいます。後ろの席だと聞こえづらいのと言われた方には、毎回前の席をご案内するようにしたり、メモ帳に筆談で伝えたりしています。車椅子使用の方とは、エレベーターで客席までご案内するので、世間話もして下さるようになっていきます」

常連の方

多くの方がリピーターとして来て下さいます。頻度はさまざまですが、その方がその間隔で来られないと、心配になります。しばらく来られなかった方が来られた時には、心の中で『お元気で良かった』と呟いています。この仕事をしていて良かったと思う時は？とたずねると、ちよつと待ってて下さいと言いたい、自分の机の前に貼ってある一通の手紙を見せてくれました。そこにはスタッフの優しい心遣いの感謝の言葉がつづられていました。

地域で

劇場内では「飲食可」ですが、飲食の音がうるさいとのクレームはほとんどありません。「映画を観る時のマナーをそれぞれ持ち込んで下さっているからだだと思います」。飲食可なのに、場内の売店で食べ物を販売しないのは「シアターの周りの多くの飲食店で、映画を見る前や後に映画談議に話を咲かせてほしいとの願いからです」と教えてくれました。

腰が曲がってきた老婦人

週2〜3回来られる高齢のご婦人が、徐々に腰が曲がり、佐藤さんたちは誘導をすべきか考えていたところ、これまた常連の高齢の男性が誘導をされ、それ以来、シアターに来られる時は待ち合わせをされ、一緒に来られるようになったそうです。佐藤さんのさまざまなお話をうかがいながら、ここは人生のもう一つの学校だと確信した次第です。

星川安之

本の街・神保町 書泉グランデ



書泉グランデ

神田神保町は本の街。靖国通り沿いには新刊本の店、古書店など、様々な書店が並んでいます。その中で、ビルの外観は細長いけれど、店内に並ぶ書籍は専門的で奥が深い「書泉グランデ」を紹介します。

趣味人専用

昭和46年に建設されたこのビルの1階には一般書売り場があり、通りすがりに立ち寄ってみても特に変わったところはないように思いますが、この他の各階にある専門書コーナーがこの書店の特徴です。話題の新刊本を横目で見ながら階段で地下に降りていくと、神保町らしからぬ、ちよつと刺激的なアイドル専門の本やトレーディングカードが



6階：鉄道本コーナー



3階：特撮本コーナー

目に飛び込んできます。また、エレベーターで6階に上げれば、鉄道各社の分厚い時刻表がドンつと平積みになっている、そんな本屋さんです。

そのお客様に合わせた工夫

7階にはイベント会場があります。ここでは、新刊発売記念

のトークイベントやアイドルの握手会を開催しています。「アイドルを招いたイベントに聴覚障害の人が来ることもあります。そんなときは筆談で対応。耳が聞こえないことをアイドルに伝え、アイドルもそのことを知って接しています」と話すのは店長の小林利之さんこばやしとしゆき。加えて「車椅子を使用する参加者は、一般のエレベーターとは別にフロアの奥にあるエレベーターを使って、スタッフが7階の会場まで誘導します。お年寄りには、ゆっくり大きな声で話したりして、その方に合わせて柔軟に接しています」。千人規模の大きなイベントのときはいつも以上に混雑するため、ウェブサイトの参加者募集ページで、「誘導が必要な方は事前にお申し出を」と知らせることもあります。

臨機応変にその方に合わせた対応をしたり、事前情報をウェブサイトに載せたりすること、共用品推進機構が障害のある人たちの意見を聞きながら作

成したサービスマニュアルに書かれていることと同じだと気づきました。書店の人たちは、マニュアルなしで、障害のある人たちが望んでいることをすでに実践していました。

神保町のお客さんは寛容です

書店に限らず、歌を歌ったり、大きな声で独り言を言ったりする人を時々見かけます。そういう人がいて困ったことはありませんか？と聞くと、「特にありません。他のお客さんからうるさい」と文句を言われることもありません。神保町のお客さんは寛容です。以前、DVDのパッケージを破かれてしまったときは、破けないような工夫を考えました」とリーダーの広瀬祐理さんひろせゆうり。神保町でお店を営む人、やって来る人たちでこの街は作られています。つかず離れずで、お客さんを見守り、趣味人たちを満足させる書店であり続けてほしいと思います。

かなまるじゅんこ
金丸淳子

小学館 新社屋



2階口ビー



新社屋エントランス

新社屋完成

1966年から神保町の風景の一つになっていた小学館本社ビルが、新たな街のシンボルとなつて昨年お目見えしました。50年の役割を終えた旧社屋は、取り壊しの前に多くの漫画家がビルの壁に落書きをしたことでも話題になりました。

代わつて誕生した新社屋は下の方に傾斜がついて、独特な形をしています。これは免震機能

を取り入れるために1・2階フロアの面積を小さくしているもので、内側の壁も斜めになっています。

バリアフリー

ビルの建て替えを機に、都営三田線・神保町駅とのつながりも見直されました。駅への階段の位置がこれまでと変わり、ビルと駅A8出口が直結し、地上階へのエレベーターも設置されました。近くにある共立女子大学の学生もこの出口を利用して

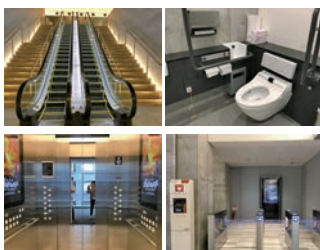
います。障害のある人のことを考えて、ビルの中はバリアフリー。しかし、そういうことは、そこで働く人たちは、案外気づかな



神保町駅 A8 出口

いものです。もともとバリアフリーや共用品は、必要でなければそこにあることに気づかず、使う人の邪魔にもなりません。「必要な人にだけ分かつてもらえれば」と思いつつも、やはり知っていてほしいこともありま

す。日本には、トイレの水を流すボタン、トイレットペーパー、非常ボタン、この3つの位置関係を決めたJIS（日本工業規格）がありますが、このビルに設置された多機能トイレもそのルールを取り入れています。また、エレベーターには階数ボタンの左側に点字を表示しています。これもJISで規定されています。車椅子使用の人が操作



社屋内の設備

できるように、かご内の両サイドの低い位置に階数ボタンがあります。1階と2階をつなぐエスカレーターは、乗り始めはゆっくり動き、途中で少しスピードが上がります。セキュリティゲートは、車椅子が通れるように、幅の広いゲートが端に設置されています。ここでは車椅子より、スーツケースや、荷物をたくさん持っている人の利用が多いかもしれません。

良いものを残しながら変化する旧本社ビルの受付壁面にあつた大理石は、磨きなおされて新社屋の受付の壁やA8出口の社名表示の装飾に利用されています。素材は同じでも仕様を変えて次の役割を果たしています。

神保町は、本を作り、本を売ってきた街です。作り方も売り方もこの50年で変わってきましたが、本の街の良さは残しながら、これからの50年を歩んでいくことと思います。

金丸淳子

優しさと知性が溢れる 共立女子大学・共立女子短期大学



共立女子大学・共立女子短期大学
2号館外観

皇居と神田古書街から歩いてほど近い場所に、130年の歴史を誇る共立女子大学・共立女子短期大学があります。今回は、昨年の平成28年に建てられた、2号館の中にある図書館（KWU Library Commons）や、共立の取り組みについてご紹介します。

共立女子大学・共立女子短期大学 図書館

図書館には、学生が楽しんで学べる環境が整っています。図書館機能を十分に備えた上に、5Fのラーニング・コモンズでは、少人数から大人数まで、様々な学修パターンの展開が可能となっています。例えばクリエイイ

ティブ・コモンズと呼ばれるエリアでは、自由に使える文房具や様々な場所に置かれたホワイトボードを使って、グループでアイデアを出し合う学修ができ、グローバル・コモンズでは、靴を脱いでゆったり畳でくつろげるコーナーもあります。この空間では、学生が集中して学修したり、仲間と一緒に楽しみながら学んだりすることができます。

またラーニング・コモンズでは時折、留学生の母国語が飛び交うことがあるそうです。学生生活を送る中で、身近にグローバルな世界があるということ、学生にとって良い経験の一つとなると思います。



クリエイティブ・コモンズ
(ラーニング・コモンズ内)

学習支援プロジェクト

共立が力を入れていることの一つにICT環境の活用があります。現代の情報社会ではICT環境と上手に付き合っていくことが必要です。共立では学習支援プロジェクトを通して、教員や学生の支援をしており、授業に使う教材資料作成・支援や動画コンテンツの作成・配信なども行っています。

その学生に合った対応を

また学習支援プロジェクトでは、障害のある学生への支援も行っています。共立女子大学では昨年までの4年間、全員の学生が在籍していました。全員の



グローバル・コモンズ
(ラーニング・コモンズ内)

学生が他の学生と同じように学修できるようにするためには、設備や個別の配慮も必要です。共立では学生が入学することが決まると、その学生を支援するために支援プロジェクトを立ち上げるのだそうです。「その時は必要な設備機器やソフトを、全員の学生と一緒に相談しながら整えました」と、話してくれたのは図書館課担当課長の村居昌俊さん。講義の資料については、学生のニーズに合わせてテキスト化したり、点字ソフトを用いた点字データの作成をしたりして対応されたそうです。学習支援プロジェクトの岡本千代さんは「手作りでしたので読みにくいところがあったと思います。でもそこは彼女が我慢して読んでくれたのだと思います」と申し訳なきように話してくれました。それでも学生生活を謳歌し、4年で卒業できたのは、本人の努力とともに学生の立場に立った支援の賜物だと感じました。

森川美和

他者との「連携・共生」をはかり、「個」として光り輝く人材を目指す明治大学

明治大学は1881年1月、明治法律学校として創立されました。現在、法学部・商学部・政治経済学部・文学部・理工学部・農学部・経営学部・情報コミュニケーション学部・国際日本学部・総合大学院（法務研究科）、専門職大学院（ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科、会計専門職研究科）、さらに付属高等学校・中学校を擁する総合大学です。

キャンパスは、駿河台、和泉、中野（いずれも東京）、生田（神奈川）の4つがあります。まさに、21世紀を担う日本を代表する都市型大学の一つです。

駿河台キャンパスの中心、リバティタワー

地上23階、地下3階、高さ約120メートル、延べ床面積約5万9千平方メートルを誇るリバティタワーは、地下1階から16階までが文系学部生用フロア、19階から22階が教室、研究



駿河台キャンパス、リバティタワー

室、事務室などが入るフロア、その他に食堂や体育館、地下駐車場、そして中央図書館を併せ持つ複合施設です。この図書館には、視覚障がいのある学生の学習を支援するための部屋があります。点字の六法や図書の所蔵、拡大コピーや点字プリンタなども整備されています。

障がい学生学習支援チーム

このリバティタワーの中に、明治大学の障がいのある学生の学習を支援するチームが所属する教務事務室があります。現在は複数の障がい学生に対する支援を行っていますが、支援は全て学生の意思の表明から始まります。まずは面談で学生の要望を確

認。学生の要望通りの支援ができないこともあります。その時は代替案の提案など対話を通して合意形成をしていきます。

障がい学生と考えた工夫

以前、全員の学生が在籍した時に大学は地域と掛け合い協力を求めながら、駅から大学までの点字ブロックを敷設しました。しかし実際に学生が授業を受け始めると、学内の思いがけないところにも不便さがあることが判明。リバティタワーには、複数の教室があるため自分が受ける授業の教室がどこかの確認が難しいとのことでした。

そこで全ての教室に点字で教室番号を表示することにしました。ど



視覚障害支援を行う機器や点字の憲法判例

の位置に貼るのが良いか話し合い、最終的に「点字を貼る位置は、入室の際必ず触るドアノブの上」で統一することにしました。

学生が支援を待つという受け身ではなく、自らが必要とする支援を考え、発信できるようになることを大切にしながら、小さな工夫を行うことで、不便さを一緒に克服していきます。

こうして整えられた環境は、次に入学してくる障がい学生にとっても過ごしやすい環境になります。それを繰り返すことで、次の世代の学生にとっても学習しやすい環境となつていきます。一つ一つの支援は、学生の意志を尊重し、かつ細やかで丁寧、それが次につながっていくことを実感しました。

森川美和



ドアノブの上の点字

サクラホテル&カフェ神保町



サクラホテル&カフェ入り口

はじめに

1994年に神保町2丁目にオープンした「サクラホテル」には、外国からのお客さんが年間約1万人訪れます。1人〜8人部屋が43室、116名が泊まれるそれぞれの部屋はベット、テレビそして空調があるシングルな作りになっています。

支配人の陳信儒^(Chen Chin)さんは、台湾で生まれ、お父さんの仕事で中米のコスタリカで高校までをすごしその間、一度旅行で来た日本に「何と安全な国なんだろう」との印象を持ち、その後日本の大学で四年間学びました。中国語、スペイン語、英語、日本語が話せることを活かせる仕事がないかと探しているうちに「サクラホテル」を知り5年前に入社、4年前から支配人の重責を担っています。フロントの陳さんには、ひっきりなしに宿泊客からさまざまな言語での問い合わせがあります。その一つ一つに対し、スピーディ且つ丁寧に応える陳さんの応対に、宿泊客の不安顔が笑顔に変わっていく情景が繰り返されます。

英語などが通じないお客さんの場合は、ジェスチャーや絵を書いたり、スマホでグーグルの翻訳機能を使って会話をしたりで、言葉が通じなくてもお互いが分かり合いたいと思えば、何でもなると陳さんは言います。

サクラカフェ神保町

サクラホテルの入り口には、



支配人の陳信儒さん

40名ほどが座れるカフェがあり、朝の4時半から11時まで、パン、日替わりスープ、コーヒー、各種ドリンクが各種おかわり自由のモーニングの時間です。宿泊客でなくても利用できるとのこと、朝立ち寄ってみるところ、中国語、韓国語、ドイツ語、英語が飛び交っており、まるで国際空港の中にあるレストランで朝食をとっているようでした。

昼食、夕食の時間を問わず、カレー、ボルシチ、サンドイッチ、フレンチトーストに加え、40か国以上のビールを楽しむことができます。

イベント

お客さんの中には、前もって計画して来ない人もいるため、皇居の周りのランニングや、神楽坂、鎌倉、横浜、日光などのツアーを、NPOと連携して行っています。カフェでは、部屋ではできない大勢での交流を頻繁に開いています。

お話をうかがった日も、「ハワイアンフェア」が40名もの人たちが参加して盛大に行われており、どの顔からも異国にいる不安が消えていました。

障害のある人の宿泊

「車椅子使用の方、目の不自由な方、耳の不自由な方など、障害のある方も時々お越しいただいています。車椅子使用の方には、1階のフロントに近い部屋をお勧めしたりしていますが、その他は、それぞれの方と話をし、試行錯誤をしながら、一生懸命お手伝いすることを決めていっています。ここには、さまざまな方に来ていただいているので、障害のある方も、こここの空間では全く違和感がない状況です」と陳さんは話してくれました。行った先の国の良し悪しは、泊まったホテルの人的対応で大きく変わります。

リピーターが多いサクラホテルは国際交流に大きな貢献をしていると強く感じます。

星川安之

「神保町と共用品」

ことよしかず
後藤芳一

神保町の中心は、地下鉄神保町駅のある神保町交差点（靖国通りと白山通りの交差点）であり、住所は東京都千代田区神田神保町である。ここでは少し広げて同区内の三崎町、西神田、神田神保町、一ツ橋、猿樂町、神田駿河台、神田錦町、神田小川町（町名の順序は北西から南東へ）の界隈を考えよう。

1. いまの神保町

人それぞれの神保町がある。古書店、専門書店、出版社、大学・同窓会会館、専門学校、予備校、病院、企業本社・団体本部、文学・音楽・映画関連施設、楽器店、スポーツ用品店、画材店、中華料理、蕎麦、キッチン（洋食）、カレシ、喫茶店など。専門性の高い施設や店舗は、街全体が、「総本山の集まり」のようだ。学びに通っている・通った、専門的な本・楽器・スポーツ用品を探し、催しに参加するなど、文化の深さが人を集め、それがさらに専門性を尖らせるという循環が続いている。

2. なぜ神保町になったか（直接の背景）

明治以降に多くの大学ができた。順天堂大学（1838年）、筑

波大学（1872年※）、一橋大学（1875年※）、お茶の水女子大学（1875年※）、専修大学（1880年）、明治大学（1881年）、中央大学（1885年※）、共立女子大学（1886年）、日本大学（1889年）、東京電機大学（1907年）、東京医科歯科大学（1929年）などである（名称は現在名、年号は創設年、他から神保町へ移転したものや他へ移ったもの（※印）もある）。

岩波書店は1913年に古書店を開き、夏目漱石の作品を出版した。その成功をみて他の出版社が続いた。学生や教育関係者が集中したことが、こうした波及を生んだ。楽器、スポーツ用品、キッチンも同じ背景をもつ。

3. なぜ神保町になったか（歴史的背景）

学問の集積のはじまりは、江戸時代後半にさかのぼる。江戸幕府の教育機関である昌平坂学問所（昌平黉、1790年、東京大学の前身）が湯島に、蕃書調所（1856年、同）が九段下に、お玉が池種痘所（1858年、同）が岩本町に設立された。文部省は昌平黉の跡に設

けられた（1871年）。この地域は旗本や武家屋敷が多かったことで、文化的程度が高く、まとまった土地があり（例：武家屋敷跡に私立大が開設）、幕府から徒歩圏にあった。そこに学術や関連行政の中核機関を設けたことが、明治以降の集積を生んだ。

さらにさかのぼると、1616年に神田明神（創建は8世紀）が現在地に移った。現在地は江戸城の表鬼門にあたる。江戸開府（1603年）を経て幕府が社殿を造営した。江戸総鎮守として幕府から庶民まで信仰を集めた。神田祭、蕎麦などに今も江戸が息づく。

4. 神保町はゆりかご

小川町、須田町に電気部品の露店ができ、東京電機大学の学生が利用したことやラジオブームで店が増え（オーム社は錦町にある）、後に徒歩圏内で移って秋葉原電気街ができた。東亜高等予備学校（1914年、神保町）では周恩来が学んだ。中国人留学生が多かったことが、今の中華料理の集積につながった。

神保町にはさまざまな起源をも

つ組織や機能があつて人が往来する。それが江戸の時代から続いて活動の背中を押し、人を育てて送りだしてきた。その蓄積がこの街にあり、育った人がまた還ってくる。神保町は、人と文化を育てるゆりかごだ。

5. 共用品と神保町

神田生まれは江戸っ子の中の江戸っ子、神保町は神田の中心だ。金離れがよい・細かいことにこだわらない・負けず嫌い・やせ我慢・人情家で涙もろい・おせっかい・正義漢・祭り好き・粋が江戸っ子。共用品推進機構は前身であるE&Cプロジェクトの時代から神保町にある。機構の活動は同じ街にある出版社に支えられ、事業者と協力し、不向きのある当事者や学生の来訪をうけ、沢山ある店や駅のバリアフリーの取組みに触れ、行き交う人たちから時代を感じてきた。それを、不向きを調べ・よかったことを伝え・次の困りごとを受けとめる活動につなげてきた。神保町は、今もこうして新しい取組みを育んでいる。

家電製品、家事の道具等に関する良かったこと調査報告
 使い手の気持ちを考えた製品は、使用者の元にちゃんと届く

この数年で、家電製品、家事の道具等に関して、製品の多機能化、複雑化が進み、操作等が分かりにくくなったという声や障害のある人達や高齢の人達より聞かれるようになった。しかし反面、今まで使えなかった機能が使えるようになり便利になったという声も聞かれる。そこで平成28年度は、障害のある人達や高齢の人達にとって、家電製品、家事の道具等などの製品のどの部分が使いやすくなっているのかを調査し、報告書にまとめた。

調査結果概要

回答者数は456名で、身体特性別の回答者数は以下(図表1)



調査報告書表紙

図表1：回答者の障害及び疾病種別 n=456

全盲 91名	上下肢障害 11名	精神障害 4名
弱視 36名	難病(その他) 1名	認知症 16名
ろう 34名	リウマチ 45名	その他 1名(内部障害《呼吸器》)
難聴 15名	パーキンソン病 36名	障害はない11名(障害のある人の家族などの回答含む)
盲ろう 8名	がん 18名	
上肢障害 2名	知的障害 2名	高齢者60歳以上(国連の定義による) 84名
下肢障害 16名	発達障害 25名	

のとおりである。

今回の調査もこれまでと同様に、自由記入の多いアンケート調査を行い、一部ヒアリング調査を実施した。今回集計した自由回答の総数は7154件でその内訳を以下(図表2)に示す。

図表2：自由回答の総数(7,154件)

家電製品	6,753件
その他の調理・料理道具	119件
その他の掃除・洗濯道具	79件
人的応対	137件
その他の人的応対	66件

自由回答では、様々なご意見をいただいた。家電製品の中には、一般的に必需品といわれるモノもあれば、その人だからこそ必要というモノもあり、様々な見方ができる。

報告書の全文は当機構のウェブサイトでご覧いただけるが、ここでは「家電製品」に関する良かったことのうち、回答数が多かった製品を一部ご紹介したい。

【パソコン】

- ・12個あるファンクションキーが、わずかな隙間で4つずつに区切られているだけで格段に使いやすかった。(全盲40代女性)
- ・手が痛くて字がうまく書けない時、長文などの時、キーボードが軽いタッチでできるもの(ノートパソコン)。(リウマチ50代女性)
- ・近年は、小型・軽量なのでノートPCでは車椅子でも膝の上に載せて操作等が可能なので重宝しています。(下肢障害40代男性)
- ・コンパクトでどこへでも置く。(パーキンソン病・下肢障害60代男性)
- ・持ち運びできるラップトップ型が便利。(高齢者60代男性)
- ・画面拡大ができてよかった。(弱視難聴70代男性)

- ・特別なパソコンを買うことなく、ある程度のものであれば対応できるということがありがたく、音声さえ出れば生活の中でもとても助かります。(全盲40代女性)
- ・スクリーンリーダーを使用。(盲ろう70代女性)

【電子レンジ・オーブンレンジ・トースター】

- ・すぐに温められる機能がついているので、一人暮らしには助かります。(難聴40代女性)
- ・電子レンジはすぐに温める事ができるので毎日使用。(リウマチ・上下肢障害70代女性)
- ・ガスで鍋こがしが多くなった。電子レンジの簡単操作のものは一人で利用できるため、温かな食事が食べられている。(認知症・難聴80代女性)
- ・妻が不在の時、冷凍インスタント品の調理に使用している。(高齢者70代男性)
- ・オーブンレンジのオーブン、温度設定が音の違いでできる。(全盲20代男性)

- ・電子レンジボタンなどに点字などがついていて便利。(全盲40代男性)
- ・機能の表示が分かりやすい。(難聴60代女性)

【テレビ】

- ・電子レンジで調理できる機器等を使用することによって、火を使わなくても済む場合があり、安全に調理が可能。(上下肢障害30代男性)
- ・電子レンジは内容を知らせてくれるものを使っている。(全盲60代男性)
- ・音声操作案内がフル装備されている。(全盲40代男性)
- ・画像の品質の向上にビックリ。(がん50代女性)
- ・画面がきれいだから。色が周囲となじむ。(精神障害30代女性)
- ・最近のテレビは軽くなって、動かしたりできるので助かります。(リウマチ60代女性)
- ・よく見ます。(ニュース、ドキュメンタリー等) 2画面があるので便利です。(ろう60代男

性)

- ・字幕付きで昭和時代より、テレビの情報得られる。(難聴40代女性)
- ・以前は、字幕が少なくTVをみることもなかったが、字幕が普及し、NHKの大河ドラマなどを楽しめるようになった。そのことで、家族(同僚)とTVのことで話をしたりしてコミュニケーションが広がった。(難聴50代男性)

- ・テレビで副音声で耳で聞けるようになった。(全盲60代男性)
- ・使用説明書に写真、図があり、文章が少ないのが分かりやすかったです。重要な点を太字・赤字にしてあるのも同様です。(発達障害20代男性)

【スマートフォン】

- ・タッチパネルでも押したときに振動系が反応し、「押した感覚」が伝わるように工夫されていることがすばらしい。(全盲40代女性)
- ・スマホのタッチ操作は指に障害があっても使いやすい。(上下

肢障害30才男性)

- ・無料通話・メールアプリでの音声操作は非常に便利。声だけで離れた場所からでも電話をかけることができるので、緊急時に動けなくなっても声だけで電話をかけて助けが呼べる。(上下肢障害30代男性)
- ・ワンセグつきのは、外出先でも字幕付きでテレビを見られる。(難聴50代男性)

- ・体調が悪い時にすぐに連絡ができるようになったり、逆に連絡をもらえるようになった。緊急の場合(かかりつけ医が休みであったり、深夜であったり)等の病院探しと対策方法を調べることもPCを使うよりも身体を動かすことができなくなった。(精神障害30代男性)
- ・インターネット検索は必須。日々重宝しています。(高齢者70代女性)

良かったこと調査報告書のサイト
http://www.kyoyohin.org/ja/research/report_goodthings.php

森川美和

あすなる会 (若年性特発性関節炎 親の会) の活動

広報担当理事 いしがきしげこ 石垣成子

若年性特発性関節炎 (JIA) とは

この病気は、16歳未満で発症し、少なくとも6週間以上持続する、原因不明の慢性関節炎と定義され、子ども10万人に10~15人の割合で発症すると言われています。

成人の慢性関節リウマチ (RA) と異なり関節炎症状以外に発疹、心膜炎、肝脾腫、リンパ節腫瘍、ブドウ膜炎などを伴います。またJIAと一言で呼んでいても、それぞれ異なる病態であり、①全身型関節炎、②少関節型関節炎、③リウマトイド因子陽性多関節炎、④リウマトイド因子陰性多関節炎、⑤乾癬性関節炎、⑥付着部炎関連関節炎、⑦未分類関節炎の7つに分類されます。

疾患のタイプによって、治療方法や検査内容などが異なるため、いずれも専門医のもとで正しく診断を受ける事が重要とされています。

7つの病型のうち全身型、少

関節型、リウマトイド因子 (陽性・陰性) 多関節型はかつての若年性関節リウマチ (JRA) に相当し、全JIAの94%を占めると言われています。

それぞれの症状の現れ方、治療には個人差がある事や、個々においても日によって状態の善し悪しが違う疾患である事、痛みや倦怠感といった目には見えない症状を主症状としている事が特徴と言えます。

あすなる会の活動

あすなる会は、1985年に患児の親達で設立した任意の非営利団体です。常にこの病気の症状や治療に対して、専門医に助言を求め、正しい理解を深めつつ、新しい情報を得て、JIAの子どもたちを取り巻く諸問題に前向きに取り組む活動を続けてきました。会報を年4回発行し、全国各地での医療相談会・懇親会の開催や一年の一大イベントともいえるサマーキャンプの開催、各種学会での広報



あすなる会刊行物

活動、電話相談も随時行っております。

JIA患者がかかえる課題

様々な治療薬が開発され、大人数のリウマチ (RA) 同様、診断技術や治療成果も向上してまいりました。早期診断・早期治療が予後を左右すると言われていますが、専門医の数も少なく、なかなか良い治療につながらない患者もまだまだ多いです。本人、家族は勿論のこと、社会にも病気を正しく理解してもらう事が求められます。

生物学的製剤の登場により、

ここ数年間で子ども達のQOLは良くなり、将来的展望も持てるようになりました。しかし、それは薬によって維持されているものであり、二十歳を過ぎても治療を続けていかなければならない問題は従来の医療からずっとひきつづいております。

基礎疾患だけではなく、成人期には年齢的に併発する疾患への対応策として他の専門科との連携も必要です。また、生物学的製剤を導入した場合、年間120万円位はかかると言われており、小児慢性特定疾患研究事業における医療費助成が切れてからの経済的負担があまりにも大きく、必要な治療も中断せざるを得ない方も続出しております。

私達は、子ども達の未来のために、二十歳を過ぎても必要な治療を安心して受け続けられる福祉制度への改革を切に求め、活動してまいります。

第18回共用品推進機構活動報告会報告



報告会全体風景

2017年7月6日(木)、東京ドームホテル(東京都文京区)で、第18回共用品推進機構活動報告会を開催しました。当日は、法人賛助会員並びに関係者65名の出席をいただきました。今年の活動報告会のテーマは、『「前例がない」から『前例を作る』〜誰もが暮らしやすい社会を目指して』と題して、NPO法人自立センター・東大和理事長/東大和市地域自立支援協議会会長/呼ネット(こねっと) 副代表の海老原宏美さんと、株式会社ANNA総合研究



講演中の海老原さん(写真左)

所価値創り事業部 主席研究員 白井昭彦さんにご講演をいただきました。『前例がないなら(みんなで作れば)いくつ出会うつちやえばこつちのモン!』海老原さんは、進行性神経筋疾患難病で人工呼吸器ユーザー。障害のある人もない人と対等に暮らせる社会づくりの推進を行っていきます。差別、偏見、先入観は「知らない」ことで生まれる、インクルーシブ社会を創るためには人と人が「出会う」



講演中の白井さん

こと、そしてインクルーシブ教育に取り組むことが大事と話されました。著書『まあ、空気でも吸って』の中には、人との関わり方がちりばめられていて、『合理的配慮』への取り組みに悩む人達へのヒントが満載です。『快適な空の旅へ』ANAの取り組みとリオ・オリパラ事例から」白井さんからは、ANAが現在実施しているサポートと今後の課題、そして海外での取り組み

み事例について講演いただきました。質疑応答の時間には、視覚障害のある会員とのやり取りも絶妙で、会場が和やかな雰囲気になりました。

「法人賛助会員等活動報告」

活動報告会を締めくくる「法人賛助会員等活動報告」では、パワーポイントや動画を使った報告もあり、「毎年この発表を楽しみにしている」という参加者もおられました。

「交流会での意見交換」

報告会終了後に開催した交流会には、多くの方が参加してくださいました。賛助会員の皆様と関係者の方々、講演者の方々と積極的な意見交換等が行われ、新たな連携を生んでいました。次年度も開催しますので、またご報告をさせていただきます。活動報告会・交流会の様子は「共用品推進機構ブログ」で紹介しています。

<http://www.kyoyohin-news.org/>

特集 神保町

【事務局長だより】
星川安之

四年前、共用品推進機構の理事、柿内健介^{かきうちけんすけ}さんの紹介で、石川雅己^{いしかわまさみ}千代田区長にお会いし、共用品・共用サービスの話をしていただく機会がありました。東京都の福祉部長をされていた石川区長は、機構の事業にご関心を寄せていただきましたが一言、「国際的な活動も良いが、地元で共用品を広げていくのも大切ではないか」とアドバイスいただきました。その一言から、千代田区主催の障害者週間、福祉まつりのイベントで、共用品を紹介する貴重な機会をいただいています。今回、インクルの特集を「神保町」としたのは、共用品推進機構の事務局が神保町に移ってから21年がたちますが、地元の人たちに共用品・共用サービスについて、ちゃんと伝えてこれていないとの思いからでした。

とはいっても、古書、新書、出版、教育、映画、各国料理、カレー、ラーメン、楽器、スポーツ用品など、ぱっと思いつくだけでも多くのキーワードが浮かぶ街です。目次を決めるために分類し具体的な場所、人物を思い浮かべては、文献やネットで調べていくうちに、あれもこれも紹介したくなり、その度にページがオーバーし、また減らす…といった作業を繰り返し行いました。

そして取材をはじめてみると、神保町に誇りをもった人に出会い続けることができ、紹介したいことがさらに増え、今度はどうやって所定の字数に収めるか、と共にはできるだけ多くの写真で現場感を伝

えたい気持ちとの葛藤が続きました。結論は、今回の特集の何百倍もの奥深さをもった街が神保町であると分かったことです。そのため神保町特集は、再度また組んでみたいと思っています。

神保町特集の最後に一つのお店を紹介します。

機構の事務局メンバーをはじめ、委員会やプロジェクトが終わった後に、一番よく通っている中華料理の北京亭です。水道橋の東口から、神保町の交差点に向かい200メートル程行った右側にある、元旦以外年中無休のお店です。

二代目の社長、呉明玉^{ゴメイギョク}さんは10年前まで同店でコック長を務めており先代から引き継いだ後は、中国本場の味をお客さんに伝えるためには中国人が料理をすることが必要と考え株式会社とし、働きやすい環境を作ると共に、赤坂、森下に上海亭という支店も作り、成功を収めています。店には、車椅子、盲導犬使用者も多く来られますが、呉社長をはじめ日本語がおぼつかない従業員も戸惑うことなく対応している姿をしょっちゅう見かけます。

呉社長、今は2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、英語の手書きのメニューに料理の写真を加え、世界から来られるお客さんにうちの店の料理を味わってもらおうと張り切っているところのことです。



共用品通信

【会議】

第14回理事会（5月29日）

第10回定時評議員会（6月22日）

【講義・講演】

愛知県犬山市立犬山中学校 共用品講座（森川、6月2日）

早稲田大学学生に講義（星川、6月8日）

日本大学学生に講義（星川、6月9日）

公益法人協会セミナーで講義（6月21日）

アクセシブルデザインの総合情報誌 第109号

2017（平成29）年7月25日発行

"Incl." vol.17 no.109

The Accessible Design Foundation of Japan

(The Kyoyo-Hin Foundation), 2017

隔月刊、奇数月発行

編集・発行（公財）共用品推進機構

発行人 富山幹太郎

編集長 山川良子

事務局 星川安之、森川美和、金丸淳子、田窪友和

執筆 石垣成子、後藤芳一

デザイン 関戸菜美

表紙写真 神保町交差点

編集・印刷・製本 サンパートナーズ(株)

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2F

電話：03-5280-0020

ファクス：03-5280-2373

Eメール：jimukyoku@kyoyohin.org

ホームページ URL：http://kyoyohin.org/

本誌の全部または一部を視覚障害者やこのままの形では利用できない方々のために、非営利の目的で点訳、音訳、拡大複製することを承認いたします。その場合は、共用品推進機構までご連絡ください。

上記以外の目的で、無断で複製することは著作権者の権利侵害になります。